



流産手術について

● 手術の必要性

- 妊娠初期に流産する頻度は10～15%です。手術しなくても妊娠組織は自然に排出されますが、いつ流産するかは予測できません。緊急性を要する腹痛や出血が起こる可能性があり、手術によって妊娠組織を除去したほうがよいと考えます。また、組織を病理検査に提出することで、胎状奇胎などの異常妊娠ではないことも確認できます。

● 手術の時期と方法

- **妊娠11週までは**、日帰り入院で手術を行います。朝に吸水性の拡張剤を子宮頸管に入れ、1～2時間かけて子宮口を広げます。手術は午前中に静脈麻酔下に吸引法で行います。10分程度で終わります。麻酔から覚めて問題なければ帰宅できます。
- **妊娠12週以降**に子宮内胎児死亡となった場合は、2～3日間かけて子宮頸管を十分に開いてから子宮収縮薬を使用します。4～5日間の入院が必要です。

● 起こりうる合併症とその対策

- **子宮穿孔**：妊娠子宮は柔らかいため、頸管拡張や手術の際に子宮に穴があくことがあります。穿孔の程度により、開腹または腹腔鏡下手術で修復することがあります。
- **静脈麻酔の合併症**：呼吸抑制、低血圧、ショック、誤嚥などがあります。
- **出血**：子宮収縮が不良の場合は子宮収縮薬を投与します。輸血することもあります。
- **感染症**：術後に子宮内に感染を起こす可能性があります。抗生物質を投与します。
- **絨毛遺残**：妊娠組織が残ることがあります(1～2%)。出血が続く場合や、妊娠性のホルモンが低下しない場合は、残った組織を再手術で除去します。

● 手術後の注意事項

- 術後の生活に制限はありませんが、あまり無理せず過ごしてください。シャワー浴は当日から可能です。出血が少なくなったら入浴もできます。
- 強い下腹痛、発熱、多量の出血などがあれば、外来を受診してください。
- 異常がなくても約10日後に診察し、術後経過と組織検査の結果を確認します。
- 次回の月経は、1～2ヶ月後に始まります。流産が原因で不妊になることはありませんが、2回目の月経が異常なく終わってから妊娠を考えたほうがよいでしょう。
- 極めてまれですが、子宮内外同時妊娠の場合は術後に追加治療が必要となります。

手術の実施日： 月 日 : に来院ください

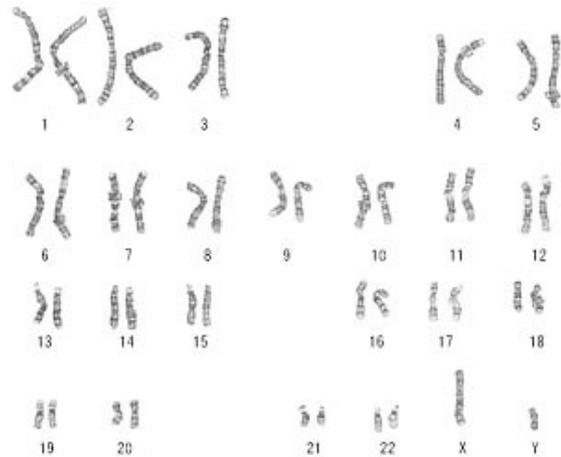
- 朝8時以降は食事をとらないでください。少量の水分は摂取してもかまいません。
- 化粧、マニキュア、ペディキュアなどはせずに来院してください。
- 準備するもの：生理用ショーツ、夜用ナプキン2～3個
- 麻酔薬を使いますので、術後は安全に車を運転できない可能性があります。必ず誰かに送迎してもらうか、公共の交通機関を利用して来院してください。

● 流産絨毛組織染色体分析

- 流産の**約70%**は胎児の染色体異常が原因です。女性が高齢になるほど増加し、35歳未満では約55%ですが、35歳以上では約75%、40歳以上では80%以上と報告されています。
- 流産組織の染色体分析により、胎児の染色体異常の有無やその種類を診断することができます。分析結果は、流産の原因を明らかにしたり、その後の妊娠の治療方針を考へたりする手助けとなります。検査は保険適用外 (60,000円) です。

● 染色体とは

- 胎児は精子と卵子のそれぞれから染色体を23本ずつ受け継ぎます。染色体には遺伝情報が含まれており、ヒトは2本1組の染色体を23組、計46本持っています。
- 染色体異常には「数の異常」と「構造の異常」があります。「数の異常」は細胞分裂の際に偶発的に生じ、染色体異常の95%を占めます。「構造の異常」は染色体が切断されて生じ、染色体全体として過不足がないもの (均衡型) と、過不足があるもの (不均衡型) があります。



● 検査の方法

- 流産組織から母体細胞を取り除き、胎児由来の絨毛細胞を分離して培養します。絨毛組織が傷ついたり少なかったりすると検査することができません。

● 検査後の対応

● 染色体正常の場合

- 母体側の要因による流産であった可能性が高くなります。ただし、染色体分析では微細な構造異常や遺伝子の変化は検出することができません。また、結果が正常女性の核型であった場合は、母体の細胞が混入した可能性があります。

● 染色体異常の場合

- 流産の原因は染色体異常と考えられます。異常の種類により対応は異なります。
- **数の異常**：ほとんどが偶発的な異常で、流産を繰り返す可能性は低いと考えます。ただし加齢により起こりやすくなるので、早めに次の妊娠を考えたほうがよいでしょう。
- **構造の異常**：ご夫婦のどちらかが構造異常を持っている可能性があり、今後も流産を繰り返すかもしれません。ご夫婦の染色体分析を行うことをお勧めします。どちらにも染色体異常がなく偶発的に生じたと考えられる場合は、流産を繰り返す可能性は低いと考えられます。